

No.136 2016.12

発行 真言宗豊山派
北田山 寶泉寺
所沢市北岩岡 130
編集 色摩 真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

寶泉寺秋の勉強会

養老指南塾 開催報告

去る11月5・12・19日、3回にわたり寶泉寺秋の勉強会「養老指南塾」が開催されました。介護という少し重たいテーマでしたが、僧侶であり看護師でもある玉置さんの進行に皆とても充実した時間を過ごすことができましたようです。以下に参加者の方からの寄稿文を掲載いたします。

今後も寶泉寺ではこのような勉強会を行って参りたいと考えていますので、ご希望のテーマがあれば遠慮なくご意見をお寄せください。

養老指南塾に参加して

三保 恒雄

平均14.5人が出席し、静かに聴き、一方で模擬「家族会議」などのワークショップには熱心に取り組んでいました。

特に私が印象に残ったのは、死は約三ヶ月前から始まるということ。食事が減ってくる。外界への関心がなくなる。お迎えの予感などのサインが現れ始めるのだそうです。私事ですが、ゴールデンウィークに帰省し、母に会い、帰るときに「またね!」と言ったら「きょうなら」と返事されびっくりしたのですが、その年の7月に母は逝きました。

また、延命治療の値段について。胃ろうなど最新医療を受けると一日あたり20万円もかかる場合があるという話。これは安易に選択できないなと思いました。

死に至るまでの事。漠然とした思いしかありませんでしたが、最終日は先生を囲んでの懇親会もあり、今回の塾で色々な事が具体的に見えてきて勉強になりました。



勉強会の様子

寶泉寺団体参拝報告

寶泉寺では5年ぶりとなる総本山長谷寺への団体参拝に行つて参りました。参加者は住職含め31名。雨の降る日もありましたが、本当にすばらしい三日間を過ごすことができました。

初めて参加してくださった木村夫妻に感想文をお願いしましたので、お読みいただき雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。

寶泉寺団体参拝に参加して

木村里子（哲夫）

この度、寶泉寺団体参拝の旅に初めて参加させて頂きました。夫婦で参加の私たちは、男女別部屋と聞き不安もありましたが、当日の朝、寶泉寺門前で参加者の皆さんと「おはようございます。よろしく願います。」と挨拶を交わした時、「もう大丈夫」と胸をなでおろしました。

総本山長谷寺にての早朝開帳法要では、一步一步、399段の階段を登り、本堂へ入る時は足が震えました。静かな中、力強い読経。ただただ、身の引き締まる思いになりました。ご本尊、十一面觀世音菩薩様のお顔を仰ぎ見た時には思わず声を発してしまいました。おみ足に触れさせて頂いた時には涙が流れました。私ども夫婦にとって今年は格別な年であり、いっそう觀音様への思いが深まりました。

それぞれのお寺様での温かいご案内、説明、奥深い歴史の重みを考えさせられました。特に室生寺ではご住職のご友人にも温かい出向かいを受け、歴史ある国宝仏の案内をして頂きましたことには感謝の気持ちでいっぱいです。夜は部屋での自己紹介。何か「寶泉寺家族」のような雰囲気でした。

帰り道、主人と「こんな旅は初めてだね。また行こうね。」という言葉が口を揃えて出ていました。帰宅後は仏壇にお札を納め、ご先祖様に「参ってきたよ」と報告致しました。心温まる参拝の旅でした「ありがとう」。



元旦お経の会

「元旦お経の会」、30分程度のおつとめと新年のあいさつなど、最後に毎年集合写真を撮っています。同じ条件で撮る写真、ご自分の変わりようがわかります。

日時：1月1日 午前0時と午前9時の2回

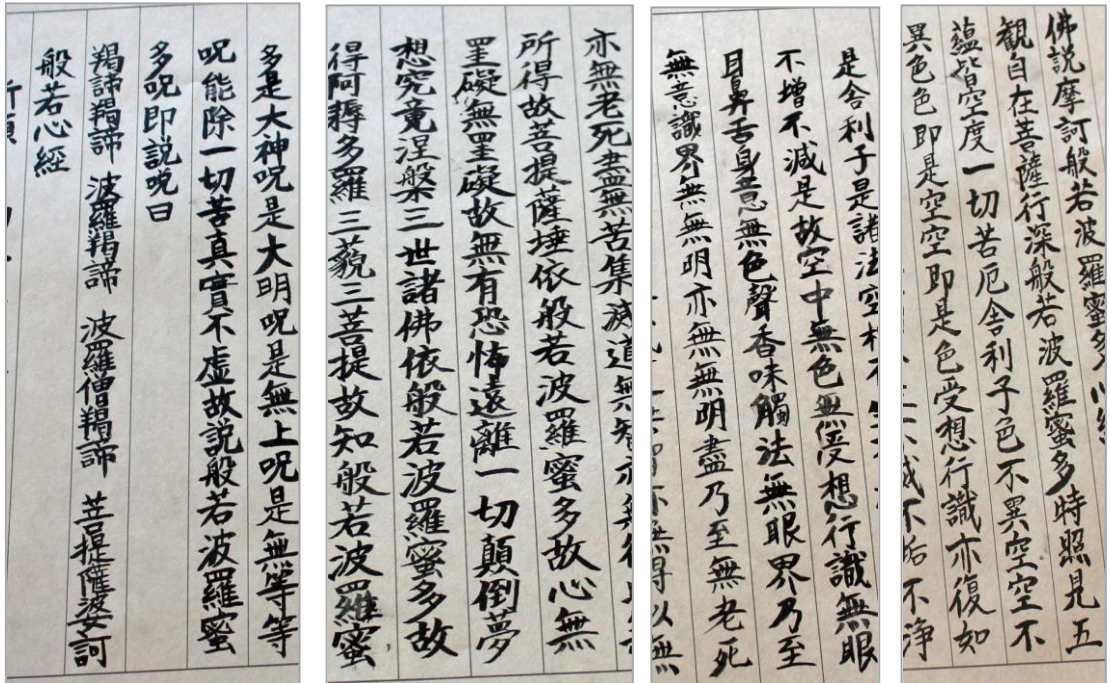
会場：寶泉寺本堂

- ・本堂の正面の階段を上って直接お上がりください。
- ・念珠やお袈裟をお持ちの方はご持参ください。

向陽中学校 社会体験

秋も深まった11月末、向陽中学校の一年生女子生徒4人が寶泉寺で社会体験をしました。初めての女子生徒でしたが大師堂の仏具磨きにはじまり墓地の清掃、落ち葉はき、本堂・るり洞の掃除、おつとめ、坐禅、写経などのちよつと専門的な課題にも取り組んでくれました。写経も最後までしっかりと仕上げました。最後に一人ずつ感想を述べてもらいましたが、まるで用意してきたかのように一瞬にまとめて発表する姿には感心しました。

初めての挑戦、4人の力作



年 回 表

平成29年



一 周 忌	平成 2 8 年
三 回 忌	平成 2 7 年
七 回 忌	平成 2 3 年
十三回 忌	平成 1 7 年
十七回 忌	平成 1 3 年
二十三回 忌	平成 7 年
二十七回 忌	平成 3 年
三十三回 忌	昭和 6 0 年

と り

このところお葬儀といえどどちらかの葬祭場でとなりました。順番を待つと1週間後というのも珍しくなく、過度な緊張を強いられることにもなりかねません。こんな時には「り洞」使用も考えてみてください。費用など詳しいことはどうぞお問い合わせください。

老僧のつぶやき ③

外国人にとって日本語は難しいと言われますが、それは敬語があるからだそうです。敬語といえど小僧が最近気になるのは「なにになにさせて頂く」という言葉です。頂くと言うと丁寧になるのですがどうも使い過ぎではないかと感じています。甚だしいのは「いただきさせていただく」「拝見させていただく」なども耳にしたことがあります。拝見や頂くにはすでにへりくだりの意味があるので敬語が2重に使われてしまっています。世の変化に伴って言葉も変わるの当たり前前といえどそうなのですが、変わっていいものとそうではないものがあるのではないのでしょうか。

先日プーチン大統領の訪日の際の安倍首相の演説の中、ファーストネームで呼びかける場面で年長者の大統領に「君」という表現がありました。これは目下の者に呼びかける言葉ではなかったかと思って辞書を開いてみました。自分に優越する人という意味もあるようで、誤用とは言えないかもしれません。しかし違和感が残りました。日本人にとっても日本語は難しいようです。

編 集 後 記

- ・中学生、初めての女子中学生の受け入れで、さて何をしようかと考えてしまったが、楽しく？3日感を過ごしてくれた。根気強く仕上げた写経は小僧の想像をはるかに超えたものだった。
- ・大師堂の壁面をどうぞご覧ください。このところ地元のカメラ愛好家に写真の掲示をお願いしている。時節に応じて入れ替えておられずれも経験深い力作ばかり、ぜひ目にしていただきたい。
- ・今日は冬至、ちょっと前から境内で実ったユズを本堂前に用意しておいた。お参りのみなさんが少しずつ手にしているようだ、どうぞ来年も楽しみにしてください。ユズやカボチャは太陽の色を示しているようだ。
- ・寶泉寺ご本尊、薬師如来様の御加護あらんことを切にお祈り申し上げます。

21. Dec. 2016 (琴)